

The Membership of the National Museum of Modern Art, Kyoto



京都国立近代美術館 友の会会報

2008
WINTER
第17号



玉村方久斗 港町寸景 1931(昭和6)年 京都国立近代美術館蔵

展覧会の

見どころ

玉村方久斗展

1月8日[火]—2月17日[日]

休館日:毎週月曜日

(但し、1月15日[火]および2月11日[火]は開館。その翌日は休館)

大正、昭和に活動した日本画家・玉村方久斗(本名・善之助) [1893—1951]は、京都市内の新京極にある錦天神近くで下駄問屋を営む家に生まれました。明治44(1911)年京都市立美術工芸学校(美工)絵画科を卒業すると、京都市立絵画専門学校(絵専)に進学、菊池芳文に教えを受け、大正4(1915)年に絵専を卒業後、岡本神草、甲斐庄楠音、入江波光ら美工および絵専の卒業生と共に日本画研究団体「密栗会」を結成、展覧会を開催します。他方で、同年再興第2回日本美術院展(院展)に《稲荷山・京護国寺・清水堂》を出品、初入選し、翌年研究生になるため、京都を出、以後、東京を中心に活動を始めます。院展には、源氏物語や紫式部日記などの物語絵巻に取材した、新しい物語絵をめざす作品を出品し、7年第5回院展に《雨月物語》を出品して楞牛賞を受賞して院友に推されるなど、速水御舟、川端龍子と並んで頭角を現しますが、9年第7回展でその主観的な作風が受け入れられずに落選したことを機として院を離れ、因習的な日本画壇を嫌って、「第一作家同盟(D・S・D)」、「三科」、「単位三科」などの前衛運動に身を投じます。この時期、彼は立体造形の前衛的な作品(現存せず)を発表し、さらに前衛的な雑誌『エポック』や『ゲエ・ギムギガム・プルルル・ギムゲム(G・G・P・G)』創刊にもかかわるほか、版画の制作も精力的に行なうなど、多彩な創作活動を展開しています。また一方では、《雨月物語絵巻》など、独自のグロテスクで諧謔的な画風で、斬新な日本画を描き、個展で発表し続けました。そして、昭和5(1930)年新しい日本画を広めようと自ら「方久斗(ホクト)社」を結成して、同志とともに発表の場を作り出し、キャッチボールをする親子を描いた《休日》のような生活断片を描いた作品や生活感情を重んじた日本画をも制作。10年同会が財政難を理由に解散した後は、大内青坡、大内青圃、笹川巴流夫らと共に結成した新興美術家協会(15年美術新協と改称)と個展を舞台に、戦前の日本画の前衛運動を牽引しました。



玉村方久斗 猫 1928(昭和3)年 京都市美術館蔵

本展は、この方久斗の、断片的にしか知られてこなかった芸術の全貌をはじめて明らかにしようとするものです。「密栗会」時代の《山十題》、院展時代の《夢》、今回80数年ぶりの本格的な公開となる9巻の画卷による大作《雨月物語絵巻》から、都市生活の情景や風景を描いた《書齋》、《街景》、そして最晩年、絵巻に仕立てられないまま残された《西鶴一代女》までの本画約140点に、エッチング、新聞や雑誌の挿絵原画に、発行に関った雑誌、主宰展覧会のパンフレット等の資料、現存しない前衛時代の作品の写真パネルを併せてご覧いただけます。また、先に開催された(平成19年11月3日~12月16日)神奈川県立近代美術館にはなかった、当館のみの試みとして、現在は残っていない、大正14年に建てられた、いわゆる三科式のモダンな自邸(設計:山越邦彦)のスチレンボードによる50分の1の模型を、山越邦彦研究会のご協力により会場に展示いたします。単なる日本画家という範疇に収まらない、広範な活動をした方久斗の軌跡を一望できる、またとない機会を、どうぞお見逃しなく。

(当館研究員・小倉実子)

美

心

短

信

方久斗の〈猫〉寸感

左頁の玉村方久斗の「猫」は、かなり個性的な猫である。晩秋の桜の枯枝に坐って、まるでミミズクのように、大きな目を見開いている。猫は転落しても、上手く体をよじって無事着地すると信じられているが、果たして、いつもいつもその通りだろうか。決して高所は得意でなく、平面でならとにかく、この猫のような情況に置かれたら、猫はもっと姿勢を低くし、爪をたてて、注意深く居るはずである。その自然の理を無視した、どこかユーモラスな猫である。折しも、凄く懸かる新月。不思議な作品である。

近代生まれのこの画家は、当然、同時代の画家の画いたいくつもの猫を、脳裡に画いただけろう。一つは、よく知られている菱田春草の、明治43年(1910)第四回文展に出品した〈黒き猫〉である。もう一つは、画家の京都市立絵画専門学校出身という経歴から考えれば、明治初期から中期の京都画壇の重鎮であった岸竹堂が、明治29年(1895)、日本美術協会展に出品した〈月下猫児図〉。江戸時代には京派と呼ばれた絵から、近代の日本画へと、京都の日本画が脱皮してゆく過渡期に画かれた名作である。方久斗の「猫」の世界は、確かにこの竹堂の作品に近い。竹堂の作品は瀟洒な一幅である。アンシャンレジームの良さというようなものを、形で示すならば、恐らくこのような作品がふさわしいであろう。画面は、おぼろ月の下、川端の柳の枝先にいるカマキリに、子猫が揺れる枝におっかなびっくりの姿勢で近づこうとする、その何気ない寸時を画いている。京派伝統の、俳句的な情趣の世界である。しかし、この甘さの底には、渋く難解な何かがある。方久斗はそこに拘ったと思う。春草の〈黒き猫〉のパロディーならば、むしろ、より簡単だったかも知れない。残月と桜の紅葉、典型的な秋景ながら、方久斗は洋画的な描法で、故意に典型的な情緒を壊している。そのくせ、芝



岸 竹堂 月下猫児図 1896(明治29)年

居の書き割りのような、蒔絵の硯箱の意匠のような残月は残している。そして、大きな黒猫は、春草の〈黒き猫〉や、竹内栖鳳が画いた名作〈斑猫〉の、振り返りざまに人間を睥睨する猫をも、ライバルに置いている。しかし、竹堂の猫のお座敷芸のような世界、栖鳳の猫のような面魂、春草の猫のような古典的な品格、そのいずれも、この方久斗の猫の世界ではなかった。暗い残月と黒猫。目はぎょろっと赤く、舌も赤く、毛は黒々と光沢があって、筋肉質の若い猫は、西洋画と伝統との狭間に揺れる、容易ならぬ新しい日本画世界を目指して、今や枝を飛び移ろうと身構えている姿のシンボルとも思える。

(当館・友の会事務局長 加藤類子)

展覧会 予告

ドイツ・ポスター 1890-1933

2008年2月26日(火)―3月30日(日)
(毎週月曜日休館)

友の会よりのご案内

細見美術館新年の催し ＜芦屋釜の名品＞

2008年1月2日(水)―2月11日(月・祝)
(2月11日を除く月曜休館)

入館料：一般1000(団体800)円、学生800(600)円
本館友の会会員は団体料金で入場できます。
開館時間：午前10時―午後6時

芦屋釜は福岡県遠賀郡遠賀川の河口に近い芦屋で、鎌倉時代末から桃山時代にかけて鑄造された茶の湯釜の総称で、多くの名品が生まれた。なめらかな地肌、浜松図、亀甲模



芦屋敷地楓鹿図真形釜(重文)
細見美術館蔵

様、走獣模様など明るく、華やかな文様を表している。細見美術館のコレクションの基礎を築いた初代細見古香庵(1901-79)はこの釜の蒐集に情熱を傾け、その研究、展示、茶器としての普及に大きな足跡を残した。この展覧会は東京の五島美術館との共催で、重要文化財に指定された7点を含む、約50点の芦屋釜が展示される。また、参考出品として、越前芦屋、伊勢芦屋、鉄風炉、下絵なども展示。

「芦屋釜」様式の茶釜は、現在の金工作家にとっても、制作意欲をかきたてるのであろう、現代の名品が造られている。

当館コレクション・ギャラリーの休室

2007年12月25日から2008年4月7日まで、内部工事のため4階のギャラリーを休室します。

友の会の催し

友の会・京都市立芸術大学音楽学部 共催によるコンサートご案内

日時：12月22日(土) 午後6時から
会場：当館1階ロビー
入場：無料(整理券が要ります)

曲目：

- ◆W.A.モーツァルト：フィガロの結婚より「序曲」
- ◆Ch. グノー：小交響曲
- ◆R.ワーグナー：ローエングリンより「エルザの大聖堂への行列」
- ◆L.アンダーソン：そりすべり
- ◆作曲者不祥：クリスマス讃歌「久しく待ちにし」

- ◆J.S.バッハ：カンタータ147番
「心と口と行いと生命もて」より
コラール「イエスは変わりなき我が喜び」
(主よ、人の望みの喜びよ)

- ◆植松さやか編：クリスマスメドレー

- ◆P. I. チャイコフスキー：くるみ割り人形より
「小序曲」「行進曲」「こんぺいとうの踊り」
「ロシアの踊り」「葦笛の踊り」「花のワルツ」

*当日、都合により内容が変更されることもあります

- 開館時間
午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 夜間開館
4月15日(金)―9月2日(金)までの企画展開催中の金曜日
午前9時30分～午後8時まで(入館は午後7時30分まで)
- 休館日
毎週月曜日(月曜日が休日に当たる場合は、翌日が休館)、
及び年末年始
(開館時間、休館日は臨時に変更する場合があります)

※お車で越しの場合 岡崎公園駐車場(地下)をご利用の有料入館者は、駐車場の割引(1台1名)を受けられますので、駐車券をお持ちの上お越しください。

交通案内



独立行政法人国立美術館

京都国立近代美術館

The National Museum of Modern Art, Kyoto

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町
TEL. 075-761-4111

テレフォンサービス 075-761-9900
ホームページ <http://www.momak.go.jp>